

いわゆる「イギリス貿易の構造轉換」の実態： 「関税会計録」による一分析

FUNAYAMA, Eiichi / 船山, 榮一

(出版者 / Publisher)

法政大学社会学部学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

Society and labour / 社会労働研究

(巻 / Volume)

17

(開始ページ / Start Page)

195

(終了ページ / End Page)

222

(発行年 / Year)

1964-02-20

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00006291>

《研究ノート》

いわゆる「イギリス貿易の

構造轉換」の実態

——「関税會計録」による一分析——

船 山 榮 一

—

中世盛期以降におけるイギリス貿易の趨勢を鳥瞰するとき、誰の目にも際立ったコントラストをなして映ずる一つの特徴的な現象が見出される。すなわち、一三世紀末においてイギリスの輸出貿易の大宗を形づくるものは原料羊毛であった。しかるに一六世紀前半をとってみると、かつてその輸出は僅少であり、むしろイギリスにとってかなり重要な輸入品ですらあった毛織物がいまやこの国の最大かつ圧倒的比重をもつ輸出品目に転じ、反対に原料羊毛の輸出は甚だしく減少していることがそれである。この現象はイギリスがほぼ二世紀余りを経過するなかで、貿易構成の側面からみれば原料輸

いわゆる「イギリス貿易の構造轉換」の実態

出国から加工生産物輸出国へと決定的に変貌したことを端的に告知するものであるといつてよい。このような事態はつとにW・カニングムやW・アシュリーによって指摘されて以来、しばしば史家の注目をあつめてきたところのものであり、近くはE・M・ケアフス、ウィルソン教授によって「イギリス貿易の構造轉換」(Transformation of England's trade)として特徴づけられている。⁽³⁾ひるがえって当時のイギリス社会内部における経済組織を顧みるならば、この間にイギリスではマナー制度の崩壊が全面的に進行し、資本制生産の端緒的形成が開始されていたことはすでに周知の事柄に属する。上記の輸出構成上の変貌は、これまでわが国においても究明されてきた、そのような経済組織の轉換にまさしく照応するも

のである。これまでこの時期を対象とするわが国の研究では、資本主義形成の基本的契機ないし原動力如何という問題設定のもとに、主として経済組織の内部構造の究明に力が注がれてきたといえるであろう。もちろんそれは基本的な重要性をもつ視角の一つであるし、またそれによって貴重な成果がもたらされたことはいうまでもない。しかしそのような問題の立て方からする帰結として、たとえばフランスと比較した場合、ひとしく自生的な資本主義の発展とはいうものの、その特殊イギリス的な型が打ち出されてくる際に働いた諸々の要因、とりわけその場合に占める国外市場の意義を改めて吟味することは比較的看過されているかに見える。イギリス資本主義の展開構造そのものが国外市場の動向によっていかに深々と刻印されていたかは、今後、立ち入って究明さるべき課題の一つであろう。

ところでそのためにはまず、上記の貿易構成上の変化の実態を確定しておくことがさし当てる前提作業となるわけであるが、従来、こうした局面の研究にわれわれは恵まれていない。さきのカニンガムやアシュリーの研究においては、その数量の把握は何ら試みられていなかった。たしかに、ヘンリー八世時代に関するG・シャントの開拓者的研究⁽⁵⁾の後、若干の史家によって特定の時期についてはいくつかの推計が試みられてはきた。だがいづれもいわば散発的な——そしてある場合には若干の推計上の不備を含む——ものにとどまっ

ていたのである。⁽⁶⁾ だから課題の重要性は長らく痛感されてはきたけれども、イギリスにおいても実態の一貫した数量的確定は充分に果されていなかったといわなければならぬ。このたびケアラス・ウィルソンおよびコールマン両氏によって公刊された統計集⁽⁷⁾はそうした渴を癒すものというべく、これによってはじめて、われわれはこの時期の二大輸出入部門（羊毛と毛織物）——さし当りこれだけに限られてはいるが——に関する包括的な、また最も信頼しうる数値に接することが可能となり、イギリス輸出入貿易のさまざまな局面を追究する基礎資料を与えられたのである。

小稿の目的はこの資料集に基づいて若干のデータを加工・導出し、とりあえずいわゆる「貿易の構造転換」の実態を吟味・確定し、つ、今後の研究のための地ならしを行っておくことである。

- (1) 小稿でイギリスという場合はスコットランドおよびウェールズを除いたイングランドを指す。
- (2) W. Cunningham, *The Growth of English Industry and Commerce*, Vol. I. *Early and Middle Ages*. 5th ed., p. 434; W. Ashley, *An Introduction into the English Economic History and Theory*, part II, pp. 215-16; E. Lipson, *Economic History of England*, Vol. I, pp. 546-8. 吉岡昭彦「イギリス農村工業の成立」、商学論集 二二の四、七頁。
- (3) E. M. Carrus-Wilson, *Medieval Merchant Ver-*

turers, Introduction, pp. xx, xvii; Do, Trends in the Export of English Woollens in the Fourteenth Century. in: Medieval Merchant Ventures, p. 241.

(4) だからとしてここでわたくしは「マナー制度を解体せしめ、資本主義を自律的に形成せしめてゆく窮極の力が一般に外国貿易にあるなどいおうとしているのではない。そのような見解はもはや批判済みであろう。問題はその上で、イギリス資本主義の展開と外国貿易の相互规定的関係を、前者がもちえた構造の特殊性の観点から具体的に究明することにある。国外市場を捨象することは資本主義形成の基本的契機を析出するための理論的手続きとしては必要であるが、イギリス資本主義における独自のパターンが問題となる場合には国際的契機を考慮することなしには、解明できないという予測をもつものである。この点については渡辺源次郎「近世前期におけるイギリス重商主義」社会経済史大系、V、一六一頁他、同氏によるB・E・サッブルの近業の書評、商学叢集、二九の三、二〇八頁、等の指摘をも参照。ただし氏においては、イギリス資本主義の展開に際して国外市場の占める比重の大きさを強調されるにとどまてゐるかに思われる。そのこと自体はもうん正當な指摘ではあるが、問題はさらに一步を進めて、そうした国外市場のあり方が、イギリス資本主義の内部組成そのものをどのように規定しているかという問題、そしてたとえば一九世紀中葉においてあれほど大きな開きを示す英仏資本主義の型の差異をどこまで国外市場ないし国際競争という契機に帰属せしめうるかという問題が問われなければならぬのではあるまいか。

「イギリス貿易の構造転換」の実態

(5) G. Schanz, Englische Handelspolitik gegen Ende des Mittelalters, 2 Bde (1881).

(6) 文節を参照。

(7) E. M. Carrus-Wilson and O. Coleman, England's Export Trade, 1275—1547 (1963). 以下、本書を「統計集」と略称する。

二

はじめに統計の基礎となった史料について当面必要を限り簡単に紹介しておこう。⁽⁸⁾

(1) 周知のようにイギリスではやくも一二七五年以降、王室の財政的需要から羊毛および毛皮 (skins) の輸出に対して関税が課せられることとなり——いわゆる «Ancient Custom»——、その後さらに、少数の安手物を除く毛織物の輸出についても同じく課税されるに至った。すなわち一三〇三年にはハンザ商人等の外国商人を通ずる全ての商品に対して、輸出輸入にかかわらず一定率の関税——«New or Petty Custom»と呼ばれる——が課せられ、ついで一三四七年以後にはイギリス商人による毛織物輸出に対しても課税をみるに至った——いわゆる «Cloth Custom»——。イングランドの各輸出 (入) 港ではかかる関税の徴収とともに、出 (入) 荷ごとに積荷内容および関税額について詳細に記録することが関税吏に対して義務づけられ、この記録が「個別関税会計録」(Particular Accounts)を形づくる。同時に、

羊毛と毛織物の場合には出荷総量、またその他の商品については価格総額に関する摘要が毎年、国庫に送付されてここに記録される。これが「国庫記入関税会計録」(Exchequer Enrolled Customs Accounts)なのである。そしてこれらは、少くとも一五四七年に至るまで、僅少の例外を除いて一貫して継続されている。年ごとの、またイギリス全輸出港ごとのこうした記録は、老大な文書としてマニエスクリプトのまま保存されており、したがってその連続性と包括性において他国に類比をみないイギリス独特の貴重な史料を形づくっているのである。ケアラス・ウィルソン教授らの作業は「国庫記入関税会計録」を基本とし、これにギャップのある場合には「個別関税会計録」によって補うつ、それらの周到詳細な史料設置のもとに、さし当って羊毛と毛織物についてその輸用量をまとめたものである。

- (8) 以下の史料の解説は主として Carus-Wilson and Coleman, op. cit., Introduction, pp. 30.
- (9) 16 課税事情については E. Power, The Wool Trade in English Medieval History, Chap. IV; N. S. B. Gras, The Early English Customs System; E. M. Carus-Wilson and O. Coleman, Introduction, I.
- (10) Carus-Wilson and Coleman, op. cit., Introduction, I.
- (2) 「関税会計録」を貿易統計の史料として用いる場合の信憑性に関して、ケアラス・ウィルソン教授は「統計集」に

付した長文の序論で詳細な吟味を加えているのであるが、ここでは、旧史料における記述が果して現実の輸出货量を正確に表しているかという記録そのものの正確さの問題と、同様に記録自身は正確であるとしても関税を逃れて——したがって記録されずに——行われた密貿易 (smuggling) を考慮に入れる場合、記録の数値と実際の輸出货量との喰違いの問題、にしぼって同教授の史料批判の結論を紹介しておく。まず、第一の点について。この問題がこの場合別して吟味されなければならぬのは、公文書の記述が必ずしも記録の対象たる事態のありのままの陳述ではないという事情がとくに中世においては数多く見られるからである。たとえばマナー会計録中の貨銀支払額が労働者規制法との関係のために、実際より低く記されているのはしばしば看取されるところである。また毛織物検査会計録 (Aunage Accounts) の記述と集計が多くは甚だしく作偽的なものであることは、かつて他ならぬケアラス・ウィルソン教授が鋭く抉り出したところであった。⁽¹¹⁾ ではわれわれの史料についてはどうかであろうか。ここでは同教授がこうした点を丹念に吟味した結論だけを掲げておくにとどめなければならぬ、——「かくて個別関税会計録は船と商品の実際の動きを記録したところの、少くとも信憑すべきものと思われる。そして国庫記入関税会計録は直接これに基づくものである限り、後者もまた前者と同じ程度に信憑しうるわけである。」⁽¹²⁾

つぎに密貿易の比重の考察に移れば、密貿易が行われる程度は一般に第一には関税率の水準および課税対象たる商品の相対的な嵩と価格に、第二に関税行政の効果的運営如何に依存するといつてよい。まず前者についていえば、商品が嵩ばらずに高価であり、しかもこれに課せられる関税率が高い場合には、密貿易を行う誘因は大きくまた利益も大であるわけである。したがってイギリスについては一五世紀における香料・絹・寶石、一八世紀における茶・タバコ・絹等の輸入に際して密貿易は最もしばしば行われたのであった。これに対して毛織物およびとくに羊毛は、その価格に比して嵩ばった商品であり、この点に関しては一般に密貿易にとつてあまり魅力のある商品ではなかつたことが指摘されねばならぬ。さらにこれに課せられた関税率の水準をみると、毛織物についてはその価格の二・三％⁽¹³⁾（イギリス商人の場合）、ないし四・五・六％（外国商人の場合）⁽¹³⁾を占めるにすぎず、「この場合には確かに「密貿易に対する」ほとんど何らの誘因も存在しなかつた」といふ。他方、羊毛の税率は、はじめはその価格の四％程度にすぎなかつたのであるが、次第に引上げられ、とくに百年戦争の遂行に基づく財政的困難によつては二五％（イギリス商人の場合）および三三％（外国商人の場合）にまで達せしめられた。したがつてこの点からすれば、羊毛の場合には毛織物よりは密貿易の誘因は大きかつたわけである。しかし他方において羊毛がすこぶる嵩ばつた

商品であつたことを考慮に入れると、密貿易による利益は他の奢侈品に比較すればほとんど無に等しかつたことをケアラスウィルソン教授は強調している。

第二点の関税徴収行政の能率性、すなわち関税徴収がどの程度まで実際の貿易を捕捉すべく効果ある活動をしえたかという問題についても、多方面にわたつて仔細に検討されているのであるが、ここではその詳細を紹介することを割合し結論を急ごう。同教授は以上の第一・第二点の吟味を通じて、密貿易の誘因が大きい羊毛の場合ですら、関税会計録に記録された合法的貿易に比して密貿易の比重は極めて小さく、「関税会計録に記録された輸出は恐らく輸出総量の九〇％以上を依然として保持している」という判断を下している。そして「多くの官公統計が約二〇％の誤差を含むといわれているとき、この数字は統計家によつても極めて満足すべきものと見なされるであろう⁽¹⁶⁾」と附言している。

さて、これまでも何らかの意味で当面の時期における輸出動向に關説し、その際に「関税会計録」を典拠としてイギリス貿易の数量的接近を試みている業績はかなりの数に達する。したがつてここでのこの点に關する研究史を回顧しつつ、該史料の利用のされ方という側面に限つて簡単にコメントしておくこともあながち無駄ではあるまい。

(1) まず「國庫記入関税会計録」を組織的に利用し、毛織物および羊毛の輸出の数量的確定を試みたのは、さきにもふ

れた G. Schanz, *Englische Handelspolitik gegen Ende des Mittelalters* (1881) を以て嚆矢とする。彼の作業は時期としてはヘンリー八世の治世（一五〇九—一五四七年）に限られているとはいえ、羊毛および毛織物の輸出入量を各年ごとに集計し、この時期における両品目の輸出入動向を確定しようとした先駆的な業績であり、これまで多くの論者によって参照を求められてきたものである。

(2) 他方、むしろ各輸出港の「個別関税会計録」に主たる関心を示しつつ、初期のイギリス関税組織に関する包括的な研究がグラスによって行われていたことは周知の通りである。N. S. B. Grns, *The Early English Customs System* (1918). 本書の主題からしてわれわれ当面の関心たる統計値についてふれられているところは少いけれども、巻末に付せられた「個別関税会計録」の史料抜粋は個別の観点からする極めて貴重なものといわなければならぬ。

(3) 十四世紀に関しては周知の論文 H. L. Gray, *The Production and Exportation of English Woollens in the Fourteenth Century*, *Eng. His. Rev.*, xxxix (1924) があり、同世紀におけるイギリス毛織物生産と輸出の伸張過程を数量的に跡づけようとした最初の野心的試みである。しかし生産量については例の史料的に欠陥の多い「毛織物検査会計録」に依拠しており、また輸出入量の推計にあたっては彼が扱っている五三年間の時期のうち「関税会計録」から直接算出

されたのはとびとびの二三年間のみであるため、こうした平均的方法によって「多くの興味深く重要な変動が隠されてしまふ」という不備を残すこととなり、後にケアラス・ウィルソンの批判を浴びなければならなかった。

(4) 右の論説の徹底的な史料批判の上に、一四世紀の毛織物（ただしウールンのみ）輸出の変動過程を克明に分析したのが E. M. Carrus-Wilson, *Trends in the Export of English Woollens in the Fourteenth Century*, *Eco. His. Rev.*, 2nd S., 1/2 (1950) である。こゝでは《Coth Custom》が開始された一三四七年以後、同世紀を通ずる「国庫記入関税会計録」が連続して参照され、グレイ論文の史料措置上の不備が修正・補完されている。ただしその輸出入量は各年ごとにグラフで示されているのみであって、数値としては記されていないので、われわれが改めて利用するに際して若干の不便を感じさせるものがある。

(5) 一方 M. Postan, *The Trade of Medieval Europe: the North*, in: *The Cambridge Economic History of Europe*, Vol. II (1952), pp. 192—3. には一三五三—一四八二年にわたる羊毛と広巾織の輸出入量が表示されており、われわれの利用を可能にしている。しかし、第一にその数値はほぼ三年ごとの平均値であるため、短期的変動（たとえばとくにこの時期については外交・ベスト等々の外生的要因によるそれがすこぶる多く繰返されている）を考慮せねばならぬ

徹視的考察に當つては、さきのグレイに対するケアラスウィルソンの批判と似た危惧の念を感じしめることもありうるであらう。第二にこの数値そのものがケアラスウィルソン教授の丹念な作業によつて若干の補正を要するに至つたことはボスタン教授が自ら註記してゐるところである。

(9) 一五世紀に關しては右のほかに、E. Power and M. Postan, *Studies in English Trade in the Fifteenth Century* (1933) の卷末においてボストン以下一五港ごと羊毛と羊毛織の輸出量(一三九九—一四八二年にわたつて各年ごと)が算出の上記載されており、一四四六—一四八二年間についてはイギリス全体の總輸出量がそれぞれ各年ごとに与えられてゐる。

E. P. Ramsey, *Overseas Trade in the Reign of Henry VII*, *Eco. His. Rev.*, 2nd S. VI/2 (1953) は、その表題からも知られるようにヘンリー七世の治世(一四八五—一五〇九年)における商品目の輸出量を各年ごとに算出し、シャントの作業を補足したものである。

(10) 一六世紀については著名な論文 F. J. Fisher, *Commercial Trends and Policy in Sixteenth-Century England*, *Eco. His. Rev.*, X (1940) がある。そこに付せられた統計表(一五〇〇—一六〇〇年)に關する限りでいえば、第一にロンドンからの毛織物についてのみであり、第二に、大部分は二・三年ごとの平均値がとられてゐる。

(9) 右の論説の批判をも兼ねた L. Stone, *State Control in Sixteenth-Century England*, *Eco. His. Rev.*, XVII/1 (1947) にも一六世紀前半の羊毛と毛織物の輸出量が付されているが、それは全面的に G・シャントの作業に依拠した付表である。

以上の諸業績は、輸出統計に關する限りいずれもある特定時期のみを扱つた、時期的には部分的なものであつた。これに對し E. M. Carus-Wilson, *Medieval Merchant Venturers* (1954), *Introduction*, facing p. xviii. に折込されているグラフは、一三四七年以降二百年間を一貫する最も包括的なものである。しかしそれには残念なことにグラフの基礎となつた年ごとの統計値が数字を以て記載されてゐない。そのためわれわれのデータ加工における利用に當つて不便を感じさせるものがあつた。かくして當面の時期に關する輸出統計の決定版ともいふべきものが一九六三年に公刊をみた Carus-Wilson と Coleman 両氏による統計集なのである。本ノートはこの統計集を典拠とする。

- (11) E. M. Carus-Wilson, *The Anthage Accounts: a Criticism*, in: *Medieval Merchant Venturers*
- (12) Carus-Wilson and Coleman, *op. cit.*, p. 21.
- (13) ただしハンザ商人の場合は、イギリス商人の場合よりさらに関税率は低かつた。Carus-Wilson and Coleman, *op. cit.*, pp. 22-23.
- (14) *Ibid.*, p. 23.

(15) (16) Ibid., p. 29.

(17) Carrus-Wilson, Trends in the Export etc., in: Medieval Merchant Venturers, p. 241.

三

「統計集」においては、前述の「国庫記入関税金計録」に基づいて羊毛と毛織物の輸出货量が各輸出港ごとに与えられている。われわれの第一の作業はこれらを各年ごとに集計し——その概算値は後掲の第1表におけるAおよびB項をみられたい——、イギリス全体としてみた場合の両品目の輸出趨勢をグラフで対比することである(第1図)。同図および後掲の第1、第2表をみるに当って留意すべき若干の点を摘記しておけば——

(1) 年次の期間は史料の記載に則してミクルマス(九月二九日)から翌年のそれまでである。

(2) 羊毛の量目単位たる「サック」(sack)は三六五ポンドの羊毛を含む。なお若干の「毛皮付羊毛」(woolfells)は二四〇対一サックの法定換算率で「サック」に換算の上加算されている⁽¹⁸⁾。

(3) 同じく毛織物の「クロス」(cloth)とは関税賦課上の法定規格たる「*cloth of assay*」であって、縮絨後にほぼ長さ二四ヤード・幅一 $\frac{1}{2}$ 二ヤードのダブル幅「ウッレン」(woollen)である。たとえばシングル幅ウッレン

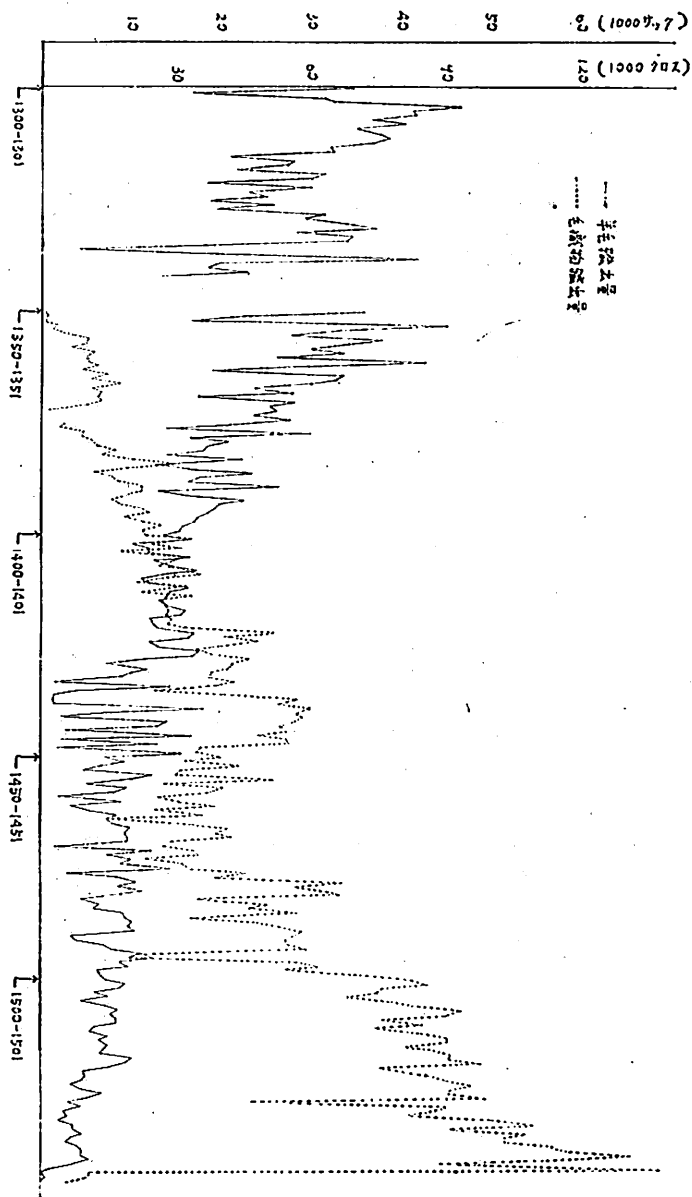
ンのごとき規格外のものは右に準じて換算の上、課税されておき、したがってこの統計値に含まれて⁽¹⁹⁾いる。

(4) ただここには「ウッステッド」(wosted)は除かれている。しかしその輸出货量はこの頃にはまだネグリジブルであって、考慮に値する数量となるのはようやく一六世紀の末以降であるから当面の大局的動向の考察にはほとんど影響するものではない⁽²⁰⁾。

(5) 明白な史料の欠損等のため若干の年次では微密にいえば実際の輸出货量より少く表わされている場合がある⁽²¹⁾。しかし小荷の目的は巨視的な概観を得ることにあるからこれには拘泥しないでおく。なお同図中、線が中断しているのはその間、史料が全く欠除していることを示す。

さて、第1図の示す羊毛輸出の動向は年によってかなり大きな振幅を以て変動しているが、大雑把な特徴としては、(1)一四世紀初頭にはしばしば四万サックを凌駕する場合もみられるが、ともかくも同世紀の六〇年代ごろまではおよそ三万サックという巨額の輸出水準を維持していること。(2)しかしそれ以降、全体としての傾向をみるとはば一貫して減少の一途をたどっており、一六世紀三〇年代に入るとかつての全盛期の実に1/10近くという水準まで低落していることが見出されるであろう。つぎに毛織物の輸出に眼を転じてみると、(1)「*Cloth Custom*」が設定されるまでの一四世紀半ば以前については数量的に確定しえないが——ただし、一二・三世

第1図



いわゆる「イギリス貿易の構造転換」の実態

紀に都市ギルドの生産物として輸出されていたことは事実である⁽²²⁾——ともかくも同世紀七〇年代に至るまでその輸出量は羊毛のそれに比して微々たるものにすぎなかったといつてさしつかえない。同その後は輸出量の軽微な低下ないし停滞を示す——その諸原因はさし当ってここでの関心外に属する——いくつかの時期が看取されるけれども、全般的にいつて羊毛の場合とは適に上向線を示し、いどくに一五世紀九〇年代以後には急角度の上昇をたどりつつ、一六世紀に至れば以前に比較して桁はずれともいふべき量に達していること、等の諸点を指摘することができる。以上、第1図は「一三世紀末から一六世紀初頭の間に、イギリス貿易の性格にみられる如き根本的な構造転換はいかなる時代も経験しなかった」といわれる事態、すなわち両品目の対極的な輸出趨勢の数量的表現を与えているわけである。

(81) E. M. Carus-Wilson and O. Coleman, op. cit., pp. 13-4.

(6) Ibid., p. 14. ただし、十五世紀末から十六世紀初頭に現れた《long cloth》(長さ四〇ヤード)——これに対して上述の規格の毛織物は課税単位上《short cloth》と呼ばれる——は換算されずに《short cloth》と同じ扱いを受けて計算されている。したがって史料の制約上からここでの数値は実際の輸出量よりやや下まわるわけである。また、「カージー機」については、一三八八年以前および一三八九〇年には関税を免除されていた

ため、この間に輸出された「カージー機」の数量はここでは落ちうる。cf. Ibid., p. 14; E. M. Carus-Wilson, Medieval Merchant Venturers, p. 263.

(20) 一六世紀前半における「ウァステッド」の輸出量については、とりあえず L. Stone, State Control in Sixteenth-Century England, Eco. His. Rev., XVII/1 (1947), p. 119. をみよ。

(21) ある特定年次において特定港からの報告が欠除している場合とか、また報告が一年全体に及ばず何ヶ月かを欠いている場合等々である。こうした点の処理については Carus-Wilson and Coleman, op. cit., pp. 9-11, 16. なお「関税会計録」におけるこのようなギャップを推定によって補正したグラフが同書に収められているからついで参照されたい。これは短期的変動の考察には必要な操作であるが、本稿での目的と後掲の第1・第2表との照応上、敢えてこれにはしたがわなかった。

(22) E. M. Carus-Wilson, The English Cloth Industry in the Twelfth and Thirteenth Centuries. in: Medieval Merchant Venturers; Do., The Woollen Industry. in: Cambridge Economic History of Europe, Vol. II.

(23) 一四世紀に関する変動については Carus-Wilson, Trends in the Export etc. in: Medieval Merchant Venturers における詳細な分析をみよ。

(24) Carus-Wilson and Coleman, op. cit., p. 1.

四

ところで、毛織物とはいっても羊毛を原料として製造されるのであるから、羊毛と毛織物の輸出の違いは原料自体を輸出するか、あるいはこれを加工した上で輸出するかという差に歸着し、原料たる素材そのものから見ればいづれにしても羊毛の輸出であることに變りはない、ということもできよう。したがって毛織物をその製造に必要な羊毛の量に還元しうるならば、イギリス産羊毛のうちで原料と加工生産物とが異なる比率を以て輸出され、それがどのように推移したかという点を羊毛の実物量で示すことができる筈である。そしてその場合には、両品目の輸出趨勢の比較はすでに第1図で見たような、單に下向と上向のクロスする二つの線によつてではなく、一層的確に表現されるであらう。このためには両者の換算率が必要であるが、一六世紀のある事情通は一サツクの羊毛から四リクロスの毛織物が製造されると計算している⁽²⁵⁾。いまかりにこの換算率にしたがつて当面の全期間にわたつて算定してみると第1表がえられる。

一三四七年以前の毛織物輸出量は史料的に与えられていないが、それは極めて僅少であるから、この時期については一応、羊毛輸出量を以て原羊毛——以下、便宜上、原料たると毛織物たるとを問わぬ元の羊毛をこう呼んでおく——の輸出量と考へてさしつかえない（したがって第1表、D項ではこ

いわゆる「イギリス貿易の構造転換」の実態

の年までの原羊毛輸出量に「」を付しておく。また、そもそも換算率の性質が——それ自体としても、またこれを以て時期を一貫させることに——かなりの誤差を含むものであらうから、数値は大まかな指標を与えるための便宜以上に出るものではない。だがいくつかの興味深い特徴を読みとることは可能である。

第一に、一四世紀中葉においても原羊毛輸出量のうち、すでに第1図から予想されるように毛織物として輸出される部分は僅かに六・七%を占めるのみである。これはイギリスが当時の国際市場において未だ圧倒的に原料供給国たる地位にとどまっていたことを如実に示すものである。しかし一五四三〜四四年には、ついに原羊毛の九六%が加工された上で海外に出るまでに至っている（なお、同年次における「ウッステッド」の輸出量は大概一〇〇〇クロスである⁽²⁶⁾）。羊毛と毛織物輸出の比重は文字通り逆転し、したがってまたいわずに「工業化」が飛躍的に進行したことが了解されるであらう⁽²⁷⁾。

第二に、両者の地位が転換しはじめる時期はまさしく一五世紀の中頃であり、さきのカニンガム以来の研究史の指摘を裏書きしている。なお、ついでにこれと関連してイギリスにおける毛織物の輸入について簡単にふれておこう。その動向を見ると、一三〇三〜一一年間において年平均約一二、〇〇〇クロスにのぼった輸入量（主としたフランドルからの）は、一四世紀三〇年代に至つて二、〇〇〇クロスにまで激減し、

第 1 表

年 次	A	B	C	D
	羊毛輸出量 (単位: 1000サック)	毛織物輸出量 (単位: 1000 クロス)	BのA換算量 (単位: 1000サック)	A+C
1300—1301	34.6			[34.6]
1301—1302	16.8			[16.8]
1302—1303	31.4			[31.4]
1303—1304	32.5			[32.5]
1304—1305	46.4			[46.4]
1305—1306	41.4			[41.4]
1306—1307	41.6			[41.6]
1307—1308	36.8			[36.8]
1308—1309	40.4			[40.4]
1309—1310	34.9			[34.9]
1310—1311	37.7			[37.7]
1311—1312	38.6			[38.6]
1312—1313	37.0			[37.0]
1313—1314	32.1			[32.1]
1314—1315	32.5			[32.5]
1315—1316	20.9			[20.9]
1316—1317	27.9			[27.9]
1317—1318	27.4			[27.4]
1318—1319	21.6			[21.6]
1319—1320	31.5			[31.5]
1320—1321	29.9			[29.9]
1321—1322	18.4			[18.4]
1322—1323	30.1			[30.1]
1323—1324	23.0			[23.0]
1324—1325	25.1			[25.1]
1325—1326	18.8			[18.8]
1326—1327	25.8			[25.8]
1327—1328	19.5			[19.5]
1328—1329	31.5			[31.5]
1329—1330	29.3			[29.3]

いわゆる「イギリス貿易の構造転換」の実態

数字は10の位を4捨5入して100位まで示す

A, C項の()内の数字はD項に対する百分比

年 次	A	B	C	D
	羊毛輸出量 (単位: 1000サック)	毛織物輸出量 (単位: 1000 ク ロ ス)	B の A 換算量 (単位: 1000サック)	A + C
1330—1331	34.0			[34.0]
1331—1332	37.1			[37.1]
1332—1333	28.4			[28.4]
1333—1334	34.6			[34.6]
1334—1335	34.1			[34.1]
1335—1336	18.3			[18.3]
1336—1337	4.3			[4.3]
1337—1338	19.5			[19.5]
1338—1339	41.8			[41.8]
1339—1340	19.9			[19.9]
1340—1341	18.6			[18.6]
1341—1342	22.8			[22.8]
1342—1343	13.4			[13.4]
1343—1344				?
1344—1345				?
1345—1346				?
1346—1347				?
1347—1348				?
1348—1349		1.8		?
1349—1350		1.3		?
1350—1351	35.9(99.5)	0.7	0.2(0.5)	36.1
1351—1352	23.2(87.2)	1.3	0.3(12.8)	23.5
1352—1353	16.8(82.5)	1.1	0.3(17.5)	17.1
1353—1354	44.9(82.5)	3.7	0.8(17.5)	45.7
1354—1355	32.9(82.6)	2.8	0.6(17.4)	33.5
1355—1356	27.8(95.9)	5.4	1.2(4.1)	29.0
1356—1357	37.9(94.0)	10.3	2.4(6.0)	40.3
1357—1358	34.2(93.7)	10.0	2.3(6.3)	36.5
1358—1359	29.9(95.2)	6.7	1.5(4.8)	31.4
1359—1360	33.6(92.6)	11.9	2.7(7.4)	26.3
1360—1361	26.2(91.9)	10.0	2.3(8.1)	28.5

年 次	A	B	C	D
	羊毛輸出品 (単位: 1000サック)	毛織物輸出品 (単位: 1000 ク ロ ス)	BのA換算量 (単位: 1000サック)	A+C
1361—1362	42.7(92.5)	10.5	2.4(7.5)	49.3
1362—1363	29.2(91.0)	12.5	2.9(9.0)	32.1
1363—1364	19.2(90.1)	9.3	2.1(9.9)	21.3
1364—1365	33.6(90.8)	14.7	3.4(9.2)	37.0
1365—1366	32.8(92.9)	10.9	2.5(7.1)	35.3
1366—1367	30.0(88.2)	17.5	4.0(11.8)	34.0
1367—1368	23.7(92.6)	11.0	2.5(7.4)	26.2
1368—1369	27.9(90.0)	13.4	3.1(10.0)	31.0
1369—1370	17.5(98.6)	12.6	2.9(1.4)	20.4
1370—1371	28.1(90.3)	13.6	3.0(9.7)	31.1
1371—1372	25.4(91.7)	10.1	2.3(8.3)	27.7
1372—1373	26.2(98.5)	1.8	0.4(1.5)	26.6
1373—1374	23.6			?
1374—1375	27.6			?
1375—1376	21.0(94.6)	5.2	1.2(5.4)	22.2
1376—1377	14.2(93.4)	4.3	1.0(6.6)	15.2
1377—1378	30.0(93.4)	9.3	2.1(6.6)	32.0
1378—1379	16.5(88.5)	9.1	2.1(11.5)	18.6
1379—1380	20.9(88.9)	11.1	2.6(11.1)	23.5
1380—1381	18.4(86.4)	12.7	2.9(13.6)	21.3
1381—1382	18.0(82.6)	16.4	3.8(17.4)	21.8
1382—1383	14.0(81.9)	13.5	3.1(18.1)	17.1
1383—1384	22.3(82.6)	20.4	4.7(17.4)	27.0
1384—1385	12.7(64.5)	30.5	7.0(35.5)	19.7
1385—1386	16.5(79.0)	19.0	4.4(21.0)	20.9
1386—1387	23.5(89.7)	11.6	2.7(10.3)	26.2
1387—1388	17.6(83.0)	15.6	3.6(17.0)	21.2
1388—1389	16.3(80.7)	16.9	3.9(19.3)	20.2
1389—1390	26.5(83.7)	22.2	5.1(16.3)	31.6
1390—1391	13.0(71.8)	22.2	5.1(28.2)	18.1
1391—1392	16.1(78.6)	19.3	4.4(21.4)	20.5

年 次	A	B	C	D
	羊毛輸出量 (単位: 1000サック)	毛織物輸出量 (単位: 1000 ク ロ ス)	B の A 換算量 (単位: 1000サック)	A + C
1392—1393	22.5(86.2)	15.4	3.6(13.8)	26.1
1393—1394	19.8(83.2)	17.4	4.0(16.8)	23.8
1394—1395	19.3(79.1)	22.3	5.1(20.9)	24.4
1395—1396	18.5(76.8)	24.1	5.6(23.2)	24.1
1396—1397	17.5(80.3)	18.6	4.3(19.7)	21.8
1397—1398	16.9(76.5)	22.5	5.2(23.5)	22.1
1398—1399	15.8(71.5)	26.8	6.3(28.5)	22.1
1399—1400	15.3(74.6)	22.6	5.2(25.4)	20.5
1400—1401	13.6(71.6)	23.3	5.4(28.4)	19.0
1401—1402	16.4(68.1)	33.5	7.7(31.9)	24.1
1402—1403	10.2(76.4)	24.6	5.7(23.6)	15.9
1403—1404	12.1(62.4)	31.4	7.3(37.6)	19.4
1404—1405	12.0(74.5)	17.8	4.1(25.5)	16.1
1405—1406	16.6(68.6)	32.9	7.6(31.4)	24.2
1406—1407	12.5(64.9)	29.5	6.8(35.1)	19.3
1407—1408	14.6(70.8)	26.0	6.0(29.2)	20.6
1408—1409	17.4(70.7)	31.2	7.2(29.3)	24.6
1409—1410	13.6(62.4)	35.4	8.2(37.6)	21.8
1410—1411	11.2(64.7)	26.2	6.1(35.3)	17.3
1411—1412	12.1(71.2)	21.3	4.9(28.8)	17.0
1412—1413	16.4(68.7)	32.6	7.5(31.3)	23.9
1413—1414	14.4(73.8)	22.1	5.1(26.2)	19.5
1414—1415	13.9(64.0)	33.6	7.8(36.0)	21.7
1415—1416	13.7(69.2)	26.4	6.1(30.8)	19.8
1416—1417	14.2(69.0)	28.0	6.4(31.0)	20.6
1417—1418	16.0(71.1)	28.3	6.5(28.9)	22.5
1418—1419	15.7(71.0)	28.0	6.4(29.0)	22.1
1419—1420	12.2(64.4)	29.2	6.7(35.6)	18.9
1420—1421	12.5(65.8)	28.1	6.5(34.2)	19.0
1421—1422	13.0(64.0)	31.9	7.3(36.0)	20.3
1422—1423	17.1(59.0)	51.8	11.9(41.0)	29.0

年 次	A	B	C	D
	羊毛輸出量 (単位: 1000サック)	毛織物輸出量 (単位: 1000 クロス)	BのA換算量 (単位: 1000サック)	A+C
1423—1424	16.5(63.4)	40.9	9.5(36.6)	26.0
1424—1425	12.2(52.5)	48.4	11.2(47.5)	23.4
1425—1426	13.2(57.6)	40.0	9.2(42.4)	21.7
1426—1427	17.6(68.7)	34.8	8.0(31.3)	25.6
1427—1428	16.9(65.8)	38.2	8.8(34.2)	25.7
1428—1429	11.7(51.5)	46.8	10.8(48.5)	22.5
1429—1430	7.3(42.4)	42.7	9.9(57.6)	17.2
1430—1431	11.9(55.0)	42.0	9.7(45.0)	21.6
1431—1432	10.0(53.2)	38.1	8.8(46.8)	18.8
1432—1433	9.0(51.2)	37.4	8.6(48.8)	17.6
1433—1434	1.7(14.5)	43.3	10.0(85.5)	11.7
1434—1435	14.3(61.1)	39.2	9.1(38.9)	23.4
1435—1436	3.9(40.0)	25.2	5.8(60.0)	9.7
1436—1437	1.6(14.7)	40.5	9.3(85.3)	10.9
1437—1438	1.5(10.3)	57.1	13.2(89.7)	14.7
1438—1439	1.6(11.7)	52.5	12.1(88.3)	13.7
1439—1440	18.2(56.8)	59.8	13.8(43.2)	32.0
1440—1441	7.4(36.0)	57.0	13.1(64.0)	20.5
1441—1442	2.4(15.0)	58.2	13.4(85.0)	15.8
1442—1443	14.2(52.0)	56.7	13.1(48.0)	27.3
1443—1444	13.1(51.8)	53.0	12.1(48.2)	25.3
1444—1445	2.9(18.0)	56.8	13.1(82.0)	16.0
1445—1446	16.8(60.0)	48.3	11.2(40.0)	28.0
1446—1447	2.3(15.4)	54.8	12.6(84.6)	14.9
1447—1448	13.2(50.7)	55.6	12.8(49.3)	26.0
1448—1449	1.9(17.8)	35.6	8.2(82.2)	10.1
1449—1450	15.6(66.1)	34.6	8.0(33.9)	23.6
1450—1451	7.2(43.7)	40.2	9.3(56.3)	16.5
1451—1452	9.3(54.1)	32.2	7.9(45.9)	17.2
1452—1453	6.7(39.4)	44.6	10.3(60.6)	17.0
1453—1454	4.9(40.5)	31.1	7.2(59.5)	12.1

いわゆる「イギリス貿易の構造転換」の実態

年 次	A	B	C	D
	羊毛輸出量 (単位: 1000サック)	毛織物輸出量 (単位: 1000 クロス)	BのA換算量 (単位: 1000サック)	A+C
1454—1455	12.4(63.9)	30.1	7.0(36.1)	19.4
1455—1456	10.1(45.7)	52.0	12.0(54.3)	22.1
1456—1457	5.1(44.3)	27.8	6.4(55.7)	11.5
1457—1458	9.6(50.5)	40.6	9.4(49.5)	19.0
1458—1459	8.1(48.8)	37.0	8.5(51.2)	16.6
1459—1460	2.1(25.9)	26.2	6.0(74.1)	8.1
1460—1461	8.9(55.7)	30.8	7.1(44.3)	16.0
1461—1462	3.3(26.8)	39.0	9.0(73.2)	12.3
1462—1463	5.5(42.2)	25.5	5.9(51.8)	11.4
1463—1464	8.4(50.0)	36.3	8.4(50.0)	16.8
1464—1465	7.3(66.3)	15.8	3.7(33.7)	11.0
1465—1466	8.0(50.6)	33.9	7.8(49.4)	15.8
1466—1467	9.9(50.5)	41.9	9.7(49.5)	19.6
1467—1468	9.4(51.1)	39.1	9.0(48.9)	18.4
1468—1469	9.7(49.5)	42.9	9.9(50.5)	19.6
1469—1470	9.6(59.0)	29.0	6.7(41.0)	16.3
1470—1471	1.6(20.0)	27.5	6.4(80.0)	8.0
1471—1472	12.3(60.9)	34.1	7.9(39.1)	20.2
1472—1473	7.4(47.7)	35.2	8.1(52.3)	15.5
1473—1474	10.0(65.9)	23.5	5.4(34.1)	15.4
1474—1475	8.9(55.3)	31.2	7.2(44.7)	16.1
1475—1476	14.4(52.8)	33.0	7.6(47.2)	22.0
1476—1477	3.0(21.1)	46.0	10.6(78.9)	13.6
1477—1478	8.7(49.2)	39.0	9.0(50.8)	17.7
1478—1479	10.6(40.6)	67.3	15.5(59.4)	26.1
1479—1480	8.7(40.0)	56.6	13.1(50.0)	21.8
1480—1481	11.4(43.4)	64.1	14.8(56.6)	26.2
1481—1482	9.0(36.8)	67.0	15.4(63.2)	24.4
1482—1483	4.7(36.8)	35.0	8.1(63.2)	12.8
1483—1484	6.6(36.1)	50.8	11.7(63.9)	18.3
1484—1485	6.0(35.7)	46.7	10.8(64.3)	16.8

年 次	A	B	C	D
	羊毛輸出量 (単位: 1000サック)	毛織物輸出量 (単位: 1000 クロス)	BのA換算量 (単位: 1000サック)	A+C
1485—1486	9.2(41.0)	57.3	13.2(59.0)	22.4
1486—1487	9.5(55.2)	33.5	7.7(44.8)	17.2
1487—1488	10.1(48.1)	47.6	11.0(51.9)	21.1
1488—1489	9.8(44.3)	53.5	12.3(55.7)	22.1
1489—1490	10.5(44.0)	58.4	13.4(56.0)	23.9
1490—1491	3.5(18.7)	56.1	13.0(81.3)	16.5
1491—1492	4.1(24.6)	54.7	12.6(75.4)	16.7
1492—1493	6.9(35.0)	55.3	12.8(65.0)	19.7
1493—1494	8.0(36.9)	59.5	13.7(63.1)	21.7
1494—1495	11.3(69.3)	21.9	5.0(30.7)	16.3
1495—1496	12.6(73.3)	19.8	4.6(26.7)	17.2
1496—1497	8.8(39.1)	57.8	13.7(60.9)	22.5
1497—1498	9.8(40.5)	62.2	14.4(59.5)	24.2
1498—1499	6.3(32.3)	54.6	12.6(67.7)	18.9
1499—1500	6.7(29.3)	70.2	16.2(70.7)	22.9
1500—1501	7.4(27.9)	82.6	19.1(72.1)	26.5
1501—1502	9.5(32.3)	86.4	19.9(67.7)	29.4
1502—1503	8.9(33.6)	76.2	17.6(66.4)	26.5
1503—1504	6.1(26.0)	75.2	17.4(74.0)	23.5
1504—1505	7.6(32.5)	68.3	15.8(67.5)	23.4
1505—1506	4.7(20.7)	78.0	18.0(79.3)	22.7
1506—1507	7.1(27.0)	83.4	19.2(73.0)	26.3
1507—1508	8.6(28.4)	93.8	21.7(71.6)	30.3
1508—1509	7.8(27.2)	90.5	20.9(72.8)	28.7
1509—1510	8.4(31.7)	76.1	18.0(68.3)	26.4
1510—1511	8.4(29.9)	85.5	19.7(70.1)	28.1
1511—1512	6.1(26.2)	74.8	17.2(73.8)	23.3
1512—1513	5.6(22.3)	84.3	19.5(77.7)	25.1
1513—1514	7.4(26.2)	90.8	20.9(73.8)	28.3
1514—1515	6.6(23.9)	91.0	21.0(76.1)	27.6
1515—1516	7.5(28.4)	81.8	18.9(71.6)	26.4

いわゆる「イギリス貿易の構造転換」の実態

年 次	A	B	C	D
	羊毛輸出品 (単位: 1000サック)	毛織物輸出品 (単位: 1000 クロス)	B の A 換算量 (単位: 1000サック)	A + C
1516—1517	7.1(26.0)	87.3	20.2(74.0)	27.3
1517—1518	6.7(24.0)	91.8	21.2(76.0)	27.9
1518—1519	10.2(32.6)	91.2	21.0(67.4)	31.2
1519—1520	9.6(32.0)	98.3	22.4(68.0)	32.0
1520—1521	7.8(30.6)	75.6	17.5(69.4)	25.3
1521—1522	4.8(25.1)	61.8	14.3(74.9)	19.1
1522—1523	5.0(20.1)	86.1	19.9(79.9)	24.9
1523—1524	4.6(18.1)	90.3	20.8(81.9)	25.4
1524—1525	3.4(13.3)	96.2	22.2(86.7)	25.6
1525—1526	4.6(17.9)	91.4	21.1(82.1)	25.7
1526—1527	6.8(24.5)	91.1	21.0(75.5)	27.8
1527—1528	5.2(18.4)	99.6	23.0(81.6)	28.2
1528—1529	3.1(22.3)	46.8	10.8(77.7)	13.9
1529—1530	4.5(17.8)	90.4	20.8(82.2)	25.3
1530—1531	2.7(11.9)	86.7	20.0(88.1)	22.7
1531—1532	3.0(13.7)	81.8	18.9(86.3)	21.9
1532—1533	2.0(8.0)	100.0	23.1(92.0)	25.1
1533—1534	3.6(12.3)	110.1	25.6(87.7)	29.2
1534—1535	3.7(14.9)	91.6	21.2(85.1)	24.9
1535—1536	4.6(15.5)	108.3	25.0(84.5)	29.6
1536—1537	3.3(12.2)	103.1	23.8(87.8)	27.1
1537—1538	2.9(10.8)	103.8	24.0(89.2)	26.9
1538—1539	4.2(13.8)	113.9	26.3(86.2)	30.5
1539—1540	4.7(14.8)	117.5	27.1(85.2)	31.8
1540—1541	4.6(13.2)	130.9	30.2(86.8)	34.8
1541—1542	5.4(17.4)	111.9	25.6(82.6)	31.0
1542—1543	3.7(15.2)	89.1	20.6(84.8)	24.3
1543—1544	1.2(3.6)	137.3	31.7(96.4)	32.9
1544—1545	0.2(7.4)	11.0	2.5(92.6)	2.7
1545—1546	0.5(17.2)	10.4	2.4(82.8)	2.9
1546—1547	0.1(6.7)	6.0	1.4(93.3)	1.5

一五世紀半ばにはもはやいかに足りぬほどになっている。⁽³¹⁾したがって一四世紀三〇と四〇年代における国内毛織物工業の急速な伸張過程を通じて、国産の毛織物が外国商品を排除しつつ一五世紀を待つまでもなく、すでにこの頃にイギリス国内市場を征服し終ったといふことができよう。これとの関連で、第1表から読みとれるようにイギリス毛織物輸出の最初の飛躍が一三五六と五七年を両期として開始されていることに注目されたい。

さて第三点として一層注目すべきことは、羊毛と毛織物の合計たる原羊毛の輸出品の推移である(第1表D項参照)。

いま両品目の輸出品がともに与えられている一四世紀後半のみに限ってみても、原羊毛の輸出品は同世紀中葉の三万五千サック前後をピークとして次第に減少していることが判明し、若干の変動がみられるとはいへ、一五世紀を通じて大略三万サックを前後し、時として一万サック近くまで激落している。⁽³²⁾一五世紀のイギリスにおけるさまじまの経済活動——当面の関心では外国貿易が著しい衰退を経験したことはすでに指摘されていることであるが、われわれはこの表から少くとも輸出品貿易量に関しては——けだし、輸出品貿易においてこの両部門が圧倒的比重を占めるのであるから——一四世紀中葉のおよそ半から半近くにまで収縮したことを確認しようである。さらに、一五世紀末以降には毛織物輸出の増加とともに、他方の羊毛輸出の継続的な減少をカヴァーしつつ原

羊毛の輸出品は漸増してゆくが、羊毛と毛織物の合計たる原羊毛の輸出品は一六世紀前半に至ってもなお、二世紀以前の水準を凌駕していないという驚くべき事実が注目されたい。⁽³³⁾

すなわち、一三五〇と五一年の三万六千サックに対して、一六世紀においては一五三八と三九年からようやく三万サック台に達するが、最大を示す一五四〇と四一年においては二万五千サック弱にすぎない。しかるに一四世紀初頭には羊毛のみで四万サック前後が輸出されているのである。前出の第1図から、この時期における毛織物輸出の巨大な躍進を強く印象づけられているわれわれにとって、これはいささか奇妙にさえ感ぜられるかもしれない。だがわれわれの推計に大過なしとすれば第1表の示すものはかくの如き実態なのである。

(31) R. H. Tawney and E. Power (ed.), *Tudor Economic Documents*, Vol. I, p. 180. の換算率によつての例として E. M. Carr-Saunders, *Medieval Merchant Ventures: Introduction*, p. xx, n. 2; P. J. Bowden, *The Wool Trade in Tudor and Stuart England*, p. 37; P. Ramsey, *Overseas Trade in the Reign of Henry VII*, *Eco. His. Rev.*, 2nd S., VI/2, p. 179, n. 4; L. Stone, *State Control in Sixteenth-Century England*, *Eco. His. Rev.*, XVII/1, p. 105, n. 3.

(32) Cf. E. Power, *The Wool Trade in English Medieval History*, p. 37.

- (27) たとえば、ケアラスウィルソン教授は新刊の「統計集」の序論においてこれを四ノ四 $\frac{1}{2}$ クロスとわざわざする。Carus-Wilson and O. Coleman, op. cit., p. 16.
- (28) 当時、イギリス羊毛の最大の需要者がフランドルであったことはさうまでもなさ。こうした国際分業の事情にふさはしきものたる M. Postan, The Trade of Medieval Europe: the North, in: The Cambridge Economic History of Europe, Vol. II, pp. 125-6; E. M. Carus-Wilson, The Woollen Industry, in: Cam. Eco. Hts. etc., Vol. II, pp. 372 f. 参照。
- (29) G. Schanz, op. cit., II, SS. 104-105; L. Stone, State Control in Sixteenth-Century England, Eco. Hts. Rev., XVII/1 (1947), p. 119.
- (30) このことが直ちに「資本主義化」をさみずするものにならことはさうまでもなさ。単なる農工商部門の比重測定とさう観点からの便宜上、「工業化」という用語を使用しつゝおくまでである。
- (31) E. M. Carus-Wilson, Trends in the Export etc. in: Medieval Merchant Venturers, pp. 242-3.
- (32) 渡辺源次郎氏は前掲「近世前期におけるイギリス重商主義」において主としてケアラスウィルソンに拠りつゝ、「一四世紀中葉以降二百年を通じて原羊毛（羊毛プラス毛織物）輸出品がほぼ不変であったと立論されているが（同書、一六九、一七〇、一七六の各頁）、第1表に示した趨勢からみて訂正されるべきである。同氏の典拠とされた Carus-Wilson, Medieval Merchant Venturers, Introduction. の叙述においてケアラスウィルソンが三なさし四つの時点のみを挙げて例示していることから

さわゆる「イギリス貿易の構造転換」の実態

- 恐らく同氏はややはやまつて全体の輸出趨勢全般を判断されたものと思われる。ただし国内市場の深化を測定しようとしてユニックなアプローチを試みられた氏の基本的論旨は、この部分的訂正によっていささかもその価値を損うものではない。ただ第1、第2表に示したわれわれの作業が同氏をはじめとして今後、広く行われるであろうところの立論に対して、基礎となる素材を提供するところの意味だけはもちうることを期待しているのみである。
- (33) イギリス一五世紀の問題については周知の論文 M. Postan, The Fifteenth Century, Eco. Hts. Rev., IX/2 (1939). 参照。
- (34) この点はすでに渡辺源次郎氏によって指摘されつゝる。同氏、前掲論文、一六九、一七三頁。なお、Carus-Wilson, Medieval Merchant Venturers, Introduction, p. xxi. をも参照。

五

以上は羊毛と毛織物に関する輸出比重を実物量で示したものであるが、つぎに同じことを価値額で試算してみるとどういう結果がえられるであろうか。この試みは両品目の価格変動、とりわけ毛織物のそれが著しいため、推計上さくぶる困難であることは改めてことわるまでもない。しかしごく大雑把な目安をうるために敢て試みるとすれば、羊毛一サツクの価格を以て購入しうる毛織物（ウツルン）は三クロス⁽³⁵⁾を越えず、実情に近い平均としては大略二クロスとされている。第

第 2 表

年 次	A	B	C	D
	毛織物輸出量 (単位: 1000クロス)	羊毛輸出量 (単位: 1000 サ ッ ク)	羊毛の毛織物価値 換 算 額 (単位: 1000クロス)	A + C
1350—1351	0.7(1.0)	35.9	71.8(99.0)	72.5
1351—1352	1.3(4.7)	23.2	26.4(95.3)	27.7
1352—1353	1.1(3.2)	16.8	33.6(96.8)	34.7
1353—1354	3.7(4.0)	44.9	39.8(96.0)	93.5
1354—1355	2.8(4.1)	32.9	65.8(95.9)	68.6
1355—1356	5.4(8.9)	27.8	55.6(91.1)	61.0
1356—1357	10.3(12.0)	37.9	75.8(88.0)	86.1
1357—1358	10.0(13.6)	34.2	68.4(86.4)	78.4
1358—1359	6.7(10.1)	29.9	59.8(89.9)	66.5
1359—1360	11.9(15.1)	33.6	67.2(84.9)	79.1
1360—1361	10.0(16.0)	26.2	52.4(84.0)	62.4
1361—1362	10.5(11.0)	42.7	85.4(89.0)	95.9
1362—1363	12.5(18.7)	29.2	58.4(81.3)	70.9
1363—1364	9.3(19.5)	19.2	38.4(80.5)	47.7
1364—1365	14.7(18.0)	33.6	67.2(82.0)	81.9
1365—1366	10.9(19.3)	32.8	65.6(80.7)	76.5
1366—1367	17.5(22.6)	30.0	60.0(77.4)	77.5
1367—1368	11.0(18.8)	23.7	47.4(81.2)	58.4
1368—1369	13.4(19.4)	27.9	55.8(80.6)	69.2
1369—1370	12.6(26.5)	17.5	35.0(73.5)	47.6
1370—1371	13.2(19.0)	28.1	56.2(81.0)	69.4
1371—1372	10.1(16.6)	25.4	50.8(83.4)	60.9
1372—1373	1.8(3.3)	26.2	52.4(96.7)	54.2
1373—1374		23.6	47.2(?)	?
1374—1375		27.6	55.2(?)	?
1375—1376	5.2(11.0)	21.0	42.0(89.0)	47.2
1376—1377	4.3(13.3)	14.2	28.4(86.7)	32.7
1377—1378	9.3(13.4)	30.0	60.0(86.6)	69.3
1378—1379	9.1(21.6)	16.5	33.0(78.4)	42.1
1379—1380	11.1(21.0)	20.9	41.8(79.0)	52.9

数字は10の位を4捨5入し100の位まで示す

A, B項の () 内の数字はD項に対する百分比

いわゆる「イギリス貿易の構造転換」の実態

年 次	A	B	C	D
	毛織物輸出量 (単位: 1000クロス)	羊毛輸出量 (単位: 1000 サ ッ ク)	羊毛の毛織物価値 換 算 額 (単位: 1000クロス)	A + C
1380—1381	12.7(25.7)	18.4	36.8(74.3)	49.5
1381—1382	16.4(31.3)	18.0	36.0(68.7)	52.4
1382—1383	13.5(32.5)	14.0	28.0(67.5)	41.5
1383—1384	20.4(31.4)	22.3	44.6(68.6)	65.0
1384—1385	30.5(57.7)	12.7	25.4(42.3)	55.9
1385—1386	19.0(36.5)	16.5	33.0(63.5)	52.0
1386—1387	11.6(19.8)	23.5	47.0(80.2)	58.6
1387—1388	15.6(30.7)	17.6	35.2(69.3)	50.8
1388—1389	16.9(34.2)	16.3	32.6(65.8)	49.5
1389—1390	22.2(29.5)	26.5	53.0(70.5)	75.2
1390—1391	22.2(46.0)	13.0	26.0(54.0)	48.2
1391—1392	19.3(37.5)	16.1	32.2(62.5)	51.5
1392—1393	15.4(25.5)	22.5	45.0(74.5)	60.4
1393—1394	17.4(30.5)	19.8	39.6(69.5)	57.0
1394—1395	22.3(31.9)	19.3	38.6(68.1)	60.9
1395—1396	24.1(39.3)	18.5	37.0(60.7)	61.1
1396—1397	18.6(34.7)	17.5	35.0(65.3)	53.6
1397—1398	22.5(40.0)	16.9	33.8(60.0)	56.3
1398—1399	26.8(45.9)	15.8	31.6(54.1)	58.4
1399—1400	22.6(42.6)	15.3	30.6(57.4)	53.2
1400—1401	23.3(46.2)	13.6	27.2(53.8)	50.5
1401—1402	33.5(50.6)	16.4	32.8(49.4)	66.3
1402—1403	24.6(54.7)	10.2	20.4(45.3)	45.0
1403—1404	31.4(56.4)	12.1	24.2(43.6)	55.6
1404—1405	17.8(42.6)	12.0	24.0(57.4)	41.8
1405—1406	32.9(49.8)	16.6	33.2(57.1)	66.1
1406—1407	29.5(54.2)	12.5	25.0(45.8)	54.5
1407—1408	26.0(47.0)	14.6	29.2(53.0)	55.2
1408—1409	31.2(47.3)	17.4	34.8(52.7)	66.0
1409—1410	35.4(56.5)	13.6	27.2(43.5)	62.6
1410—1411	26.2(53.9)	11.2	22.4(46.1)	48.6
1411—1412	21.3(46.9)	12.1	24.2(53.1)	45.5
1412—1413	32.6(49.8)	16.4	32.8(50.2)	65.4
1413—1414	22.1(43.5)	14.4	28.8(56.5)	50.9

年 次	A	B	C	D
	毛織物輸出量 (単位: 1000クロス)	羊毛輸出量 (単位: 1000 サック)	羊毛の毛織物価値 換算額 (単位: 1000クロス)	A + C
1414—1415	33.6(54.7)	13.9	27.8(45.3)	61.4
1415—1416	26.4(49.0)	13.7	27.4(51.0)	53.8
1416—1417	28.0(49.7)	14.2	28.4(50.3)	56.4
1417—1418	28.3(47.0)	16.0	32.0(53.0)	60.3
1418—1419	28.0(47.2)	15.7	31.4(52.8)	59.4
1419—1420	29.2(54.5)	12.2	24.4(45.5)	53.6
1420—1421	28.1(53.0)	12.5	25.0(47.0)	53.1
1421—1422	31.9(55.1)	13.0	26.0(44.9)	57.9
1422—1423	51.8(60.2)	17.1	34.2(39.8)	86.0
1423—1424	40.9(55.5)	16.5	33.0(44.5)	73.9
1424—1425	48.4(66.5)	12.2	24.4(33.5)	72.8
1425—1426	40.0(52.4)	13.2	26.4(47.6)	76.4
1426—1427	34.8(49.8)	17.6	35.2(50.2)	70.0
1427—1428	38.2(53.1)	16.9	33.8(46.9)	72.0
1428—1429	46.8(66.7)	11.7	23.4(33.3)	70.2
1429—1430	42.7(74.5)	7.3	14.6(25.5)	57.3
1430—1431	42.0(63.8)	11.9	23.8(36.2)	65.8
1431—1432	38.1(64.5)	10.0	20.0(35.5)	58.1
1432—1433	37.4(67.6)	9.0	18.0(32.4)	55.4
1433—1434	43.3(97.9)	1.7	3.4(2.1)	46.7
1434—1435	39.2(57.8)	14.3	28.6(42.2)	67.8
1435—1436	25.2(76.4)	3.9	7.8(23.6)	33.0
1436—1437	40.5(92.8)	1.6	3.2(7.2)	43.7
1437—1438	57.1(95.1)	1.5	3.0(4.9)	60.1
1438—1439	52.5(94.3)	1.6	3.2(5.7)	55.7
1439—1440	59.8(62.2)	18.2	36.4(37.8)	96.2
1440—1441	57.0(79.4)	7.4	14.8(20.6)	71.8
1441—1442	58.2(92.4)	2.4	4.8(7.6)	63.0
1442—1443	56.7(66.6)	14.2	28.4(33.4)	85.1
1443—1444	53.0(67.0)	13.1	26.2(33.0)	79.2
1444—1445	56.8(90.8)	2.9	5.8(9.2)	62.6
1445—1446	48.3(59.0)	16.8	33.6(41.0)	81.9
1446—1447	54.8(92.3)	2.3	4.6(7.7)	59.4
1447—1448	55.6(67.8)	13.2	26.4(32.2)	82.0

年 次	A	B	C	D
	毛織物輸出量 (単位: 1000クロス)	羊毛輸出量 (単位: 1000 サック)	羊毛の毛織物価値 換算額 (単位: 1000クロス)	A + C
1448—1449	35.6(90.4)	1.9	3.8(9.6)	39.4
1449—1450	34.6(52.6)	15.6	31.2(47.4)	65.8
1450—1451	40.2(73.7)	7.2	14.4(26.3)	54.6
1451—1452	32.2(63.5)	9.3	18.6(36.5)	50.8
1452—1453	44.6(77.0)	6.7	13.4(23.0)	58.0
1453—1454	31.1(76.0)	4.9	9.8(24.0)	40.9
1454—1455	30.1(55.0)	12.4	24.8(45.0)	54.9
1455—1456	52.0(72.0)	10.1	20.2(28.0)	72.2
1456—1457	27.8(73.2)	5.1	10.2(26.8)	38.0
1457—1458	40.6(68.0)	9.6	19.2(32.0)	59.8
1458—1459	37.0(69.5)	8.1	16.2(30.5)	53.2
1459—1460	26.2(79.7)	2.1	4.2(20.3)	30.4
1460—1461	30.8(63.5)	8.9	17.8(36.5)	48.6
1461—1462	39.0(85.5)	3.3	6.6(14.5)	45.6
1462—1463	25.5(70.0)	5.5	11.0(30.0)	36.5
1463—1464	36.3(68.4)	8.4	16.8(31.6)	53.1
1464—1465	15.8(52.0)	7.3	14.6(48.0)	30.4
1465—1466	33.9(68.0)	8.0	16.0(32.0)	49.9
1466—1467	41.9(68.0)	9.9	19.8(32.0)	61.7
1467—1468	39.1(67.5)	9.4	18.8(32.5)	57.9
1468—1469	42.9(68.9)	9.7	19.4(31.1)	62.3
1469—1470	29.0(60.2)	9.6	19.2(39.8)	48.2
1470—1471	27.5(89.6)	1.6	3.2(10.4)	30.7
1471—1472	34.1(58.1)	12.3	24.6(41.9)	58.7
1472—1473	35.2(70.5)	7.4	14.8(29.5)	50.0
1473—1474	23.5(54.0)	10.0	20.0(46.0)	43.5
1474—1475	31.2(63.7)	8.9	17.8(36.3)	49.0
1475—1476	33.0(67.4)	14.4	28.8(32.6)	61.8
1476—1477	46.0(83.5)	3.0	6.0(16.5)	52.0
1477—1478	39.0(69.3)	8.7	17.4(30.7)	56.4
1478—1479	67.3(76.0)	10.6	21.2(24.0)	88.5
1479—1480	56.6(76.5)	8.7	17.4(23.5)	74.0
1480—1481	64.1(74.0)	11.4	22.8(26.0)	86.9
1481—1482	67.0(78.8)	9.0	18.0(21.2)	85.0

年 次	A	B	C	D
	毛織物輸出量 (単位: 1000クロス)	羊毛輸出量 (単位: 1000 サ ッ ク)	羊毛の毛織物価値 換 算 額 (単位: 1000クロス)	A + C
1482—1483	35.0(79.0)	4.7	9.4(21.0)	44.4
1483—1484	50.8(79.5)	6.6	13.2(20.5)	64.0
1484—1485	46.7(79.7)	6.0	12.0(20.3)	58.7
1485—1486	57.3(75.8)	9.2	18.4(24.2)	75.7
1486—1487	33.5(63.8)	9.5	19.0(36.2)	52.5
1487—1488	47.6(70.3)	10.1	20.2(29.7)	67.8
1488—1489	53.5(73.2)	9.8	19.6(26.8)	73.1
1489—1490	58.4(73.6)	10.5	21.0(26.4)	79.4
1490—1491	56.1(89.0)	3.5	7.0(11.0)	63.1
1491—1492	54.7(87.0)	4.1	8.2(13.0)	62.9
1492—1493	55.3(80.0)	6.9	13.8(20.0)	69.1
1493—1494	59.5(78.8)	8.0	16.0(21.2)	75.5
1494—1495	21.9(49.2)	11.3	22.6(50.8)	44.5
1495—1496	19.8(44.0)	12.6	25.2(56.0)	45.0
1496—1497	57.8(76.8)	8.8	17.6(23.2)	75.4
1497—1498	62.2(76.0)	9.8	19.6(24.0)	81.8
1498—1499	54.6(81.3)	6.3	12.6(18.7)	67.2
1499—1500	70.2(84.0)	6.7	13.4(16.0)	83.6
1500—1501	82.6(85.0)	7.4	14.8(15.0)	97.4
1501—1502	86.4(82.0)	9.5	19.0(18.0)	105.4
1502—1503	76.2(81.1)	8.9	17.8(18.9)	94.0
1503—1504	75.2(86.1)	6.1	12.2(13.9)	87.4
1504—1505	68.3(82.0)	7.6	15.2(18.0)	83.5
1505—1506	78.0(89.4)	4.7	9.4(10.6)	87.4
1506—1507	83.4(85.5)	7.1	14.2(14.5)	97.6
1507—1508	93.8(85.1)	8.6	17.2(14.9)	111.0
1508—1509	90.5(85.1)	7.8	15.6(14.9)	106.1
1509—1510	76.1(82.0)	8.4	16.8(18.0)	92.9
1510—1511	85.5(83.6)	8.4	16.8(16.4)	102.3
1511—1512	74.8(86.1)	6.1	12.2(13.9)	87.0
1512—1513	84.3(88.3)	5.6	11.2(11.7)	95.5
1513—1514	90.8(86.0)	7.4	14.8(14.0)	105.6
1514—1515	91.0(87.4)	6.6	13.2(12.6)	104.2
1515—1516	81.8(84.6)	7.5	15.0(15.4)	96.8

いわゆる「イギリス貿易の構造転換」の実態

年 次	A	B	C	D
	毛織物輸出量 (単位: 1000クロス)	羊毛輸出量 (単位: 1000 サック)	羊毛の毛織物価値 換算額 (単位: 1000クロス)	A + C
1516—1517	87.3(86.0)	7.1	14.2(14.0)	101.5
1517—1518	91.8(87.2)	6.7	13.4(12.8)	105.2
1518—1519	91.2(80.7)	10.2	20.4(19.3)	111.6
1519—1520	98.3(83.6)	9.6	19.2(16.4)	117.5
1520—1521	75.6(83.0)	7.8	15.6(17.0)	91.2
1521—1522	61.8(86.5)	4.8	9.6(13.5)	71.4
1522—1523	86.1(89.6)	5.0	10.0(10.4)	96.1
1523—1524	90.3(90.7)	4.6	9.2(9.3)	99.5
1524—1525	96.2(93.2)	3.4	6.8(6.8)	103.0
1525—1526	91.4(86.3)	4.6	9.2(13.7)	100.6
1526—1527	91.1(87.0)	6.8	13.6(13.0)	104.7
1527—1528	99.6(90.5)	5.2	10.4(9.5)	110.0
1528—1529	46.8(88.4)	3.1	6.2(11.6)	53.0
1529—1530	90.4(91.0)	4.5	9.0(9.0)	99.4
1530—1531	86.7(94.3)	2.7	5.4(5.7)	92.1
1531—1532	81.8(93.2)	3.0	6.0(6.8)	87.8
1532—1533	100.0(96.2)	2.0	4.0(3.8)	104.0
1533—1534	110.1(93.9)	3.6	7.2(6.1)	117.3
1534—1535	91.6(92.5)	3.7	7.4(7.5)	99.0
1535—1536	108.3(92.2)	4.6	9.2(7.8)	117.5
1536—1537	103.1(94.0)	3.3	6.6(6.0)	109.7
1537—1538	103.8(94.7)	2.9	5.8(5.3)	109.6
1538—1539	113.8(93.1)	4.2	8.4(6.9)	122.2
1539—1540	117.5(92.6)	4.7	9.4(7.4)	126.9
1540—1541	130.9(93.5)	4.6	9.2(6.5)	140.1
1541—1542	111.9(91.2)	5.4	10.8(8.8)	122.7
1542—1543	89.1(92.3)	3.7	7.4(7.7)	96.5
1543—1544	137.3(98.3)	1.2	2.4(1.7)	139.7
1544—1545	11.0(96.6)	0.2	0.4(3.4)	11.4
1545—1546	10.4(91.2)	0.5	1.0(8.8)	11.4
1546—1547	6.0(97.0)	0.1	0.2(3.0)	6.2

2表はかかる換算率に基づいて、今度は羊毛輸出量の価値を毛織物で表現したものである。教値は第1表の換算値以上に概括的な性質のものであることはやむをえない。ここでも実物量の場合とほぼ同様の傾向が現われているが、ただ価値額で表現した場合には、原羊毛の輸出のうちで毛織物の占めるシェアがより大きくなっている。

このため第一に、一五世紀を通ずる原羊毛輸出の低下は、価値額の観点からすれば実物量で示されるほど激しいものではない。第3表は同世紀中、実物量でほぼ最低の水準を示す

	原羊毛実物量 (単位: 千サック)	原羊毛価値額 (単位: 千クロス)
1350—1351	36.1 [100]	72.5 [100]
1456—1465 (年平均)	13.9 [38]	44.6 [62]

[] 内の数字は1350—1351年を100とした場合の百分比を示す

一〇九年の平均をとり、これを三五〇—五一年を基準として実物量および価値額の双方で比較したものである。原羊毛の輸出は実物量において基準年次の四割にまで低下しているが、価値額で測定すれば六割の水準にとどまっていることが判明する。一五世紀における貿易の収縮はしばしば論じられるところであるが、こうした操作の結果は立論に際して前提となる一つの材料を提供するであろう。

第二に、当面の観点からすれば、羊毛輸出と毛織物輸出と

の比重がすでに一四世紀末において相半ばしており、貿易の構造転換ははやくもこの時点に行われたとみることができ。また原羊毛輸出額はほぼ一五世紀の第四・四半期頃には右の基準年次の水準に回復していることがわかる。

最後に一六世紀中葉と一四世紀中葉との原羊毛輸出額を価値額で比較してみると、実物量による計算とはむしろ逆に、前者が後者のおよそ二倍となっていることに留意されたい。これは毛織物と羊毛とのいわゆる付加価値の相違から生ずる当然の帰結ではあるが、両品目の地位が転倒したことを実物量で示すのみである第1表や、まして第1図においては浮び出て来なかった事実なのである。

(35) Carrus-Wilson, *Medieval Merchant Venturers: Introduction*, p. xx; E. Power and M. Postan, *Studies in English Trade in the Fifteenth Century*, pp. 12-13; L. Stone, *op. cit.*, *Eco. His. Rev.*, XVII/1, p. 119; P. Ramsey, *op. cit.*, *Eco. His. Rev.*, 2nd S. VI/2, p. 179. n. 4; Carrus-Wilson and Coleman, *op. cit.*, p. 16.

(36) 第1、第2表に基づいて作製。